



Title	センターだより 大阪大学大型計算機センターニュース 第44号 (Vol.11 No.4)
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1982, 44, p. 1-32
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65511
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ACOSシステム1000の試用について（再掲載）

ACOSシステム1000（以下S1000と呼ぶ）の正式サービス開始（ローカル・バッチ処理のみ）が3月1日（月）と決まりました。それに先立ち2月15日（月）より、運用テストを兼ねて試用を行います。

① 期間及び時間帯

2月15日（月）～2月19日（金） 午前10：00～午後4：30

2月22日（月）～2月26日（金） 午前10：00～午後4：30

② 処理形態と利用方法

センター内設置機器による利用者のセルフ・サービス入出力によるオープン・バッチ処理のみで、センター内にはカード・リーダー1台、ラインプリンタ1台、磁気テープ装置2台（9トラック、6250/1600RPI）、デマンド出力用機器1式が設置されています。

カード入力から結果の取り出しまでの利用方法はシステム900（以下S900と呼ぶ）とまったく同じです。

ただし、カード・リーダー、ラインプリンタが1台ずつしかありません。一度に多数のジョブを入出力されると他の利用者の迷惑ともなりますので、システム内に存在するジョブの数を制限する改札制限を行います。システム内には計算処理待ち、出力待ち等の状態を含めて1課題につき5件しか投入できません。6件目以降はジョブ入力時にキャンセルされます。その場合は計算結果を出力してから再入力して下さい。

試用最終日にラインプリンタに結果を出力されなかったジョブはセンター側で強制的に出力し、返却棚に返却いたします。

③ 課題番号とパスワード

S900と同じ課題番号、同じパスワードで利用できます。

ただし、科学研究費による課題番号は利用できません。

④ ジョブ区分

種 別	ジョブ クラス	CPU時間	メモリーサイズ		出力記録数
			Rモード	Vモード	
標 準	C	200/100 (2時間)	240KW	16000 KW	18000
磁 気 テープ	D	25/100 (15分)	240KW	4000 KW	6000

注) 1. 各クラスの制限値はすべてS900と同じです。

2. カードパンチ機は接続されておりませんので、カード出力はできません。
3. XYプロッタ、三次元等の特殊機器は接続されておりませんので、使用できません。
4. 磁気テープの記録密度は6250 RPIか1600 RPIです。

⑤ 基本ソフトウェアと応用ソフトウェア

ジョブ制御言語、コンパイラ、アプリケーション等はすべてS900と同じです。

⑥ ファイル

ファイル容量は1課題につき50LINKとします。

ファイルはS900と共有されておりません。移行については利用者側で行って下さい。

5月連休時にS900のファイルをセンター側でS1000に移行しますので、S1000のファイルは消去されます。S1000のファイルの必要な方は4月28日(水)までに磁気テープに退避させておいて下さい。ファイルの移行及び退避方法についてはP14「他の課題番号へファイルを移す方法」を参照して下さい。

⑦ 課 金

試用期間中は利用負担金は徴収いたしません。1課題につき利用限度額を20,000円とします。

(システム管理掛・業務掛)

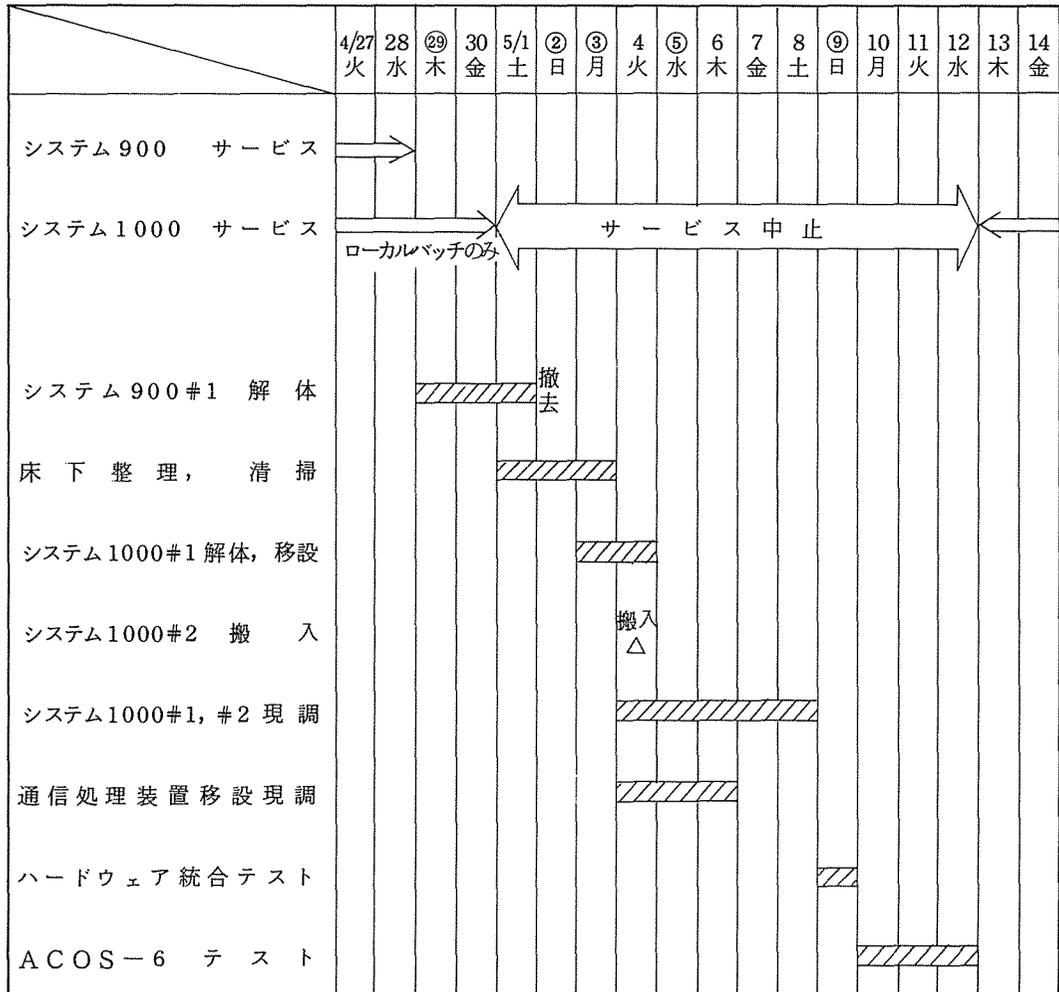
ACOSシステム1000への運用切り替えに伴なう サービス中止について（再掲載）

昭和56年12月19日に搬入したACOSシステム1000（以下S1000と呼ぶ）は、テスト運用・バッチサービスを経て5月13日（木）からACOSシステム900（以下S900と呼ぶ）からのサービスを全面的にバトンタッチします。

このバトンタッチされる期間は、S900の解体、撤去、S1000 2号機の搬入等で相当の作業が必要となりますので下記のとおり5月1日（土）から、5月12日（水）まで計算サービスを中止いたしますので御了承願います。

なお、計算サービス以外のサービス（オープンパンチ等）は平常通り行います。

記



（業務掛）

カードロッカーの整理及び新年度の予約について

年度切替に伴い学内用カードロッカーを整理いたしますので学内用カードロッカーの利用者は、3月27日（土）までに御手数でもカード等をお持ち帰り願います。

なお、期限を過ぎた場合は不要なもののみなし廃棄処分いたしますので十分御留意下さい。

57年度のカードロッカー受付は、4月1日（木）より行いますので、希望者は利用者受付で手続きして下さい。（学外利用者の更新手続きについては電話でも受付ます。）

できるだけ多くの人に使って頂くため、カードロッカーの利用は1人につき1個に限ります。

また、カードは指定された場所以外（ロッカーの上、床等）に放置しないよう御注意願います。

カードの紛失等についてはセンターで責任を負いませんので御了承願います。

ロッカー区分	期間	3/27	3/29	3/31	4/1
学内用ロッカー		← 利用期間		整理期間 (この期間は 利用できません)	← 受付及び利用期間
		← 利用期間		← 受付及び利用期間	

万が一、ロッカーに余裕がなくなれば学外及び吹田キャンパス外の利用者から優先許可することがありますので御了承願います。

負担金の改訂について

ACOSシステム1000の導入に伴い、「大阪大学大型計算機センターの利用に関する暫定措置を定める規程」の別表（いわゆる“負担金規程”）が3月1日から次頁の新旧対照表のように改訂される予定です。この改訂により、平均で約20%の“値下げ”になります。この結果、もし需要増がなければ、20%の減収となり、大幅な赤字に陥ることは必定です。サービスの低下を招かないよう、センターでも経費の節減に努める所存ですが、ユーザ各位におかれても大いに当センターを利用して頂きたいと思えます。

改訂されるのは次の項目です。

- (1) 演算負担額：システム1000の演算速度は、現行のシステム900のそれに比べて約4倍ですから、実効的には相当な値下げになります。とくに、バッチ処理での長時間ジョブがより安くなるよう、3段階制になっています。
- (2) 基本負担額：短時間ジョブはTSSで、長時間ジョブはバッチ処理（リモート・バッチ、会話および接続負担額 型リモート・バッチを含む）で、という使い方を推める意味もあって、TSSの基本負担額が20円から10円に変更され、かつ、接続負担額（TSS処理のみ）が新設されます。
- (3) 出力負担額：バッチ処理での出力量をできるだけ減らして頂きたい、ということから、他の大型計算機センターと比べて割安であった出力負担額が若干、値上げになります。とくに、カード出力に関しては、現行の規程（1枚につき1円）では原価を割っておりますのでそれが是正されます。
- (4) ドラフター：ドラフターの更新により、新装置が在来のデジタル・プロッター同様、普通紙使用負担額等 を用いることから、機種名による項目建てを改め、「XYプロッター」と総称することになります。
- (5) システム900：システム900は4月末に撤去する予定ですが、それまでの2ヶ月間、720秒未満のジョブについては、演算負担額が値下げされます。しかし、720秒以上は従来と同額になります。
- (6) 備考 6：従来から、大阪大学豊中地区および中之島地区データステーションからのリモート・バッチ処理については、基本負担額は50円（他の端局については、“ただし書き”が適用されて20円）でしたが、このことが明記されていなかったため、文章の整備が行われます。

大阪大学大型計算機センターの利用に関する 暫定措置を定める規程の一部改正(案)

別表 (現 行)

区 分	負 担 額	
基本負担額	バ ッ チ 処 理	計算依頼1件につき50円とする。ただし、リモートバッチ処理については、計算依頼1件につき20円とする。
	T S S 処 理	計算依頼1件につき20円
演算負担額	バ ッ チ 処 理	CPUタイム1秒につき3.5円とする。ただし、計算依頼1件のうち360秒を超える部分については、1秒につき1.5円とする。
	T S S 処 理	CPUタイム1秒につき3.5円
出力負担額	バ ッ チ 処 理	1記録につき0.02円とする。ただし、センターに出力した場合は、LP用紙1頁につき3円、カード1枚につき1円を加算したものとす。
ファイル使用負担額	バ ッ チ 処 理 T S S 処 理	月ごとに、1リンクにつき8円とする。ただし、申請に基づく割当量が10リンクまでの部分については無料とする。
使用負担額	ド ラ フ タ ー	ドラフター使用の計算依頼1件につき400円
	デジタルプロッター	デジタルプロッター使用の計算依頼1件につき150円
	3次元グラフィック	ハードコピー用紙1枚につき200円
ネットワーク使用負担額 (他大学の大型計算機センターからの使用に限る)	通 信 処 理	1単位につき0.25円

備 考

1. 負担額に関する計測は、システム内蔵の方式による。
2. TSS処理においては、会話開始(LOG-ON手順)から会話終了(BYEコマンド又はLOG-OFF手順)又はサービス中断の直前のコマンドまでを計算依頼1件とする。
3. CPUタイムに1秒未満の端数が生じたときは、計算依頼1件ごとに、これを1秒に切り上げるものとする。
4. 演算負担額、出力負担額及びネットワーク使用負担額に1円未満の端数が生じたときは、計算依頼1件ごとに、これを1円に切り上げるものとする。
5. 会話型リモートバッチの場合の基本負担額は、TSS処理及びリモートバッチ処理に係るものを加算した額とする。
6. 大阪大学豊中地区及び中之島地区データステーションからのリモートバッチ処理に関しては、表中出力負担額のただし書を「大阪大学豊中地区及び中之島地区データステーションに出力した場合は、1記録につき0.06円を加算した額とする。」と読み替え、センター処理と同様に取り扱うものとする。
7. 1リンクとは、3,840語の情報量を表すものとする。
8. ネットワーク使用負担額における単位数は、128バイト以内の伝送に対しては1、128バイトを超え、256バイト以内の伝送に対しては2とする。

別表

(改正案)

区 分	負 担 額	
基本負担額	バ ッ チ 処 理	同 左
	T S S 処 理	計算依頼1件につき <u>10円</u>
演算負担額	バ ッ チ 処 理	CPUタイム1秒につき <u>8円</u> とする。ただし、計算依頼1件のうち <u>300秒を超える部分については、1秒につき4円、900秒を超える部分については、1秒につき2円とする。</u>
	T S S 処 理	CPUタイム1秒につき <u>8円</u>
接続負担額	T S S 処 理	会話時間60分を超える1分につき <u>1円</u>
出力負担額	バ ッ チ 処 理	1記録につき <u>0.03円</u> とする。ただし、センターに出力した場合は、LP用紙1頁につき <u>3円</u> 、カード1枚につき <u>2円</u> を加算したものとす。
ファイル使用負担額	バ ッ チ 処 理	同 左
	T S S 処 理	
使用負担額	(削 除)	
	X Y プロッター	X Y プロッター使用の計算依頼1件につき <u>150円</u>
	3次元グラフィック	同 左
ネットワーク使用負担額 (他大学の大型計算機センターからの使用に限る)	通 信 処 理	同 左

備 考

- | | |
|----|-------|
| 1. | } 同 左 |
| 2. | |
| 3. | |
| 4. | |
| 5. | |

6. 大阪大学豊中地区及び中之島地区データステーションからのリモートバッチ処理に関しては、表中基本負担額のただし書は適用しない。また表中出力負担額のただし書を「大阪大学豊中地区及び中之島地区データステーションに出力した場合は、1記録につき0.06円を加算した額とする。」と読み替える。

- | | |
|----|-------|
| 7. | } 同 左 |
| 8. | |

(経過措置)

システム900を利用した場合は、表中演算負担額の区分を次のように読み替える。

演算負担額	バ ッ チ 処 理	CPUタイム1秒につき2.5円とする。ただし、計算依頼1件のうち720秒を超える部分については、1秒につき1.5円とする。
	T S S 処 理	CPUタイム1秒につき2.5円

この改正は、昭和57年3月1日から施行する。

卒業研究(特別研究などを含む)のための 大型計算機センター利用について

大阪大学大型計算機センター(以下「センター」という)は、現在、国・公私立大学や高等専門学校
の教官、大学院の学生、その他センター長が特に認めた者に学術研究を行うことを目的として
利用していただいております。また、この研究成果はすべて公開できるものでなければなりません。

ご承知のように、大型計算機センターは日本学術会議の勧告により設置されたものであり、国立
学校設置法施行規則には、大型計算機センターは「大学の教員その他の者に研究、教育等のため共
用させる施設」と記されており、当大型計算機センターでは、その利用資格を「大阪大学大型計算機セ
ンターの利用に関する暫定措置を定める規程」第3条に定めておりますが、現在のところ学部学生
が大型計算機センターの利用資格をもっているとは解釈しておりません。

しかし、諸般の情勢は大型計算機センターが設置された当時とは大きく異なり、電子計算機の普
及は著しいものがあります。また、電子計算機が発達するにつれて、学内外における計算機の教育
も普及し、それに伴い学部学生の卒業研究に計算機を利用させようとする傾向もめだってきており
ます。

このような状況から必要があれば卒業研究を行う学生に対しても、利用を認めることが望ましい
と考えられます。したがって本センターでは、大学の学部学生が教官の指導のもとに卒業研究を遂
行するうえに、大型計算機を利用する必要がある場合に限り、昭和57年度より下記の条件のもとで
暫定的にその利用を認めることになりました。

- (1) 共同研究者に準ずる取扱いとしてその利用を認める。
- (2) センターの利用はすべて「大阪大学大型計算機センターの利用に関する暫定措置を定める規程」
のもとで行う。
- (3) 卒業研究のための学部学生の利用も学術研究であることを必要とする。
- (4) 卒業研究のための利用であっても必ず教官の指導のもとで行われるものであり、従って利用申
請も学部学生が行うのではなく学部学生を指導する教官が行い、センター利用についての一切の
責任は申請者である指導教官が負うものとする。

昭和57年度利用者講習会計画

月 日	時間	タイトル	内 容	受講対象
4月中旬	未 定	計算機利用相談データベース(CONSULTANT)について	○計算機利用相談データベース(CONSULTANT)の利用方法等の説明	FORTRAN 習得者
5月17日 (月)	10:30 } 12:00	システムの運用について	○センターの概要 ○センターの計算機システム ○サービス内容 ○その他	FORTRAN 文法習得者で初めてセンターを利用するもの
	13:30 } 16:30	ジョブ制御言語について —FORTRAN77 ジョブ を中心に—	○ジョブについて ○アクティビティについて ○ジョブ制御言語の機能・規則の説明 ○使用例, 利用者プログラム実行上の注意	”
5月18日 (火)	10:30 } 15:45	FORTRAN77について	○FORTRAN の知識のある人を対象にACOS FORTRAN77の文法とプログラミング技法について述べる	FORTRAN 文法習得者
	16:00 } 17:00	FORTRAN77 のエラー メッセージとデバッグ機能について	○FORTRAN77 ジョブを実行する上で起しやすいエラーとその対策 ○ACOS のもつデバッグ機能	”
5月26日 (水)	10:30 } 16:00	第1回TSSとファイルの利用方法について(講義)	○FORTRAN の知識のある人を対象にTSSのコマンドとファイルの利用方法について説明する	FORTRAN 文法習得者で初めてTSSを利用する者
5月27日 (木)	10:30 } 16:30	第1回TSSとファイルの利用方法について(実習)	○TSS端末の操作方法とコマンドを1人90分づつ実習を行う	5月26日の講義を受講した者
5月28日 (金)	10:30 } 16:30	第1回TSSとファイルの利用方法について(実習)	”	”
6月3日 (木)	13:30 } 17:00	XYプロッターの利用について	○自動作図装置を利用するためのサブルーチンの説明を行う。	FORTRAN 文法習得者で初めてXYプロッターを利用する者

月 日	時間	タ イ ト ル	内 容	受 講 対 象
6月11日 (金)	10:30 }	データベース管理システム	<ul style="list-style-type: none"> ○ INQの概要について説明する ○ 新規開発者への参考になる事項を紹介する 	プログラミング 習熟者
	12:00	INQ概説		
	13:30 }	データベース管理システム	<ul style="list-style-type: none"> ○ INQにおけるデータ操作言語について文法規則を説明する 	プログラミング 習熟者
	15:30	INQ文法説明		
6月21日 (月)	10:30 }	第2回TSSとファイルの 利用方法について(講義)	<ul style="list-style-type: none"> ○ FORTRAN の知識のある人を対象にTSSのコマンドとファイルの利用方法について説明する 	FORTRAN 文 法習得者で初めて TSSを利用する者
	16:30			
6月22日 (火)	10:30 }	第2回TSSとファイルの 利用方法について(実習)	<ul style="list-style-type: none"> ○ TSS端末の操作方法とコマンドを1人90分ずつ実習を行う 	6月21日の講義 を受講した者
	16:30			
6月24日 (木)	10:30 }	第2回TSSとファイルの 利用方法について(実習)	"	"
	16:30			
6月29日 (火)	13:30 }	グラフィックディスプレイ (N6922)について	<ul style="list-style-type: none"> ○ グラフィックディスプレイの使用法を説明し、操作法を説明する 	TSSの習熟者 でこれからグラフィック ディスプレイを利用する 者
	16:00			
7月上旬	未 定	たんぱく質データベース (PROTEIN-DB) について	<ul style="list-style-type: none"> ○ たんぱく質データベース (PROTEIN-DB)の利用方法等の説明を行う 	FORTRAN 習 得者
9月13日	10:30 }	データベース管理システム	<ul style="list-style-type: none"> ○ INQによるデータ構造記述およびデータ格納技法を説明する 	プログラミング 習熟者
	12:30			
9月28日	13:30 }	三次元グラフィックディ スプレーについて	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三次元グラフィックディスプレイを利用するためのサブルーチンの説明を行う 	FORTRAN 習 熟者
	17:00			
9月中旬	未 定	地球学データベース (GEODAS) について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地球学データベース (GEODAS) の利用方法等の説明を行う 	FORTRAN 習 得者
未 定	未 定	SPSSについて	<ul style="list-style-type: none"> ○ SPSSを実行する上でのジョブ制御言語について説明を行う 	初めてSPSS を利用する者
未 定	未 定	LA (ラボラトリオートメ ーション)について	LAの利用方法など詳細が決まりましたら説明会を開催します。	

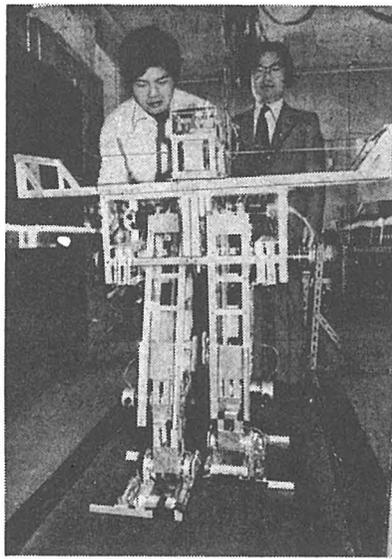
月 日	時間	タイトル	内 容	受講対象
未 定	未 定	MDF (マスマデータファイル) について	MDFの利用方法など詳細が決まりましたら説明会を開催します。	
未 定	未 定	日本語処理について	日本語処理の利用方法など詳細が決まりましたら説明会を開催します。	

注) 講習会の詳細については、開催1ヶ月前には広報します。

トピックス

押されても倒れません

大阪大、二足歩行ロボット完成



前後左右が押されたり、坂道しかかってもバランスを取り、かけ足もできる。けの小さな頭脳で表現した初めてのロボットで、その名も「草駄夫(ただい)だて」。よく設計された二足歩行ロボットが大阪大学基礎工学部で完成、近く連続歩行の実験が始まる。自分で状況判断して、バランスを保つ複雑な自律機能をマシコンで開発したのは同学部機械工学科 かるロボットはすでに原田田谷 小石につまずく、横から押されの場合、無意識にやれる歩行も機 械だをわめて困難で、現在、各「センサー」に覚え込ませお、プログラムと折り動くロボット。国で歩行ロボットの研究が進めらき、そのと折り動くロボット、かなり判断力を持つ方式に、一歩の歩むに十数秒かラム方式。しかしこの方式では、大々前進させたのが「草駄夫」。

一昨年秋、開発した二足機で、歩行ロボット研究の最初の目標、なる三歩歩行を達成、しかも二歩にかかると時間はほぼ人間並みの一歩だった。

一足機の身長は一び五、両手を広げたところの幅が一びで、一足機よりも二回り大きく、腰の両側と両方のひざ、足首に各一個、さらに腰の上部に二個の合計七個のセンサーがついている。一足機に比べ、腰の上部のセンサーで横のバランスが保てるようにしたほか、足首の機能を強化し、全体にバランス能力を大きくアップさせた。

自分とどんな位置関係にあるか、七つのセンサー部分に取り付けてある角度検出器と足の隅の隅に圧力センサー感知器からの「草駄夫(号)」は、三歩以上の連続歩行と、横から押すと予期せぬ事態への対応、さらに二歩にかかると時間を短縮する、厳し、実験に挑戦する。

有本教授は「かなり自律性を持たせるところができた」と説明している。草駄夫(号)は、三歩以上の連続歩行と、横から押すと予期せぬ事態への対応、さらに二歩にかかると時間を短縮する、厳し、実験に挑戦する。

読売新聞 昭和57年1月5日夕刊より

昭和57年度研究開発計画の公募について

大型計算機センターの計算機システムは、これからも逐次拡充を図る予定です。ハードウェアはめざましい技術の発展と共に拡充されますが、ソフトウェアはセンターだけの力ではなかなか拡充できず、宝の持ち腐れともなりかねません。

研究開発計画は、広く利用者からセンターの計算機システムの利用に関して利用者に役立つもの、システムの運用に役立つものを募集します。

センターの利用有資格者であれば誰でも応募できますので、次の要領によって応募されることを期待しています。

応 募 要 領

1. 研究開発計画の対象

- (1) 基礎及び応用プログラム開発に関するもの
- (2) 計算機言語に関するもの(クロスコンパイラーの開発など)
- (3) 計算機利用に関するもの(各種のユーティリティ・プログラム作成など)

2. 研究開発(データ・ベース)計画の対象

- (1) 学術文献データベースに関するもの
- (2) 各種実験データ、データベースに関するもの

3. 研究開発(プログラム・ライブラリー整備)計画の対象

- (1) プログラム・ライブラリーの書き換え、改良及び、精度、信頼性の検定

などで、センターの計算機システムの利用に関して利用者に役立つもの、システムの運用に関して役立つものです。

4. 応募資格

センター利用有資格者

5. 応募方法

該当する研究開発計画申請書(共同利用掛にあります)を共同利用掛に提出して下さい。

6. 締 切 日

昭和57年3月31日(水)

(締切日以降において、開発計画があれば、随時申請して下さい。)

昭和57年度プログラム相談員の募集について

センター内のプログラム相談室では、毎日一定時間内に、プログラム上の問題やセンター利用全般についての相談に応じています。十分なプログラム相談を行うには、毎年相当数のプログラム相談員が必要です。

センターでは、昭和57年度のプログラム相談員を下記の要領で募集しますので御協力いただける方、われと思われる方は是非応募下さるようお願いいたします。

記

資格：当センターの利用有資格者

期間：昭和57年4月～昭和58年3月（前後期各々半年も可）

内容：利用者からのプログラム相談、当センターで週1回2時間（隔週でも可）

月～金	土
① 10:00～12:00	① 10:00～12:00
② 13:00～15:00	
③ 15:00～17:00	

待遇：1. 利用負担金の一定額免除

イ. 任期1年の方 14万円相当（隔週担当の場合は7万円相当）

ロ. 任期半年の方 7万円相当（隔週担当の場合は3.5万円相当）

2. マニュアルを一定限度まで無償配布

3. プログラム相談室の端末の利用

4. ジョブの優先処理

応募方法：応募用紙が当センター、豊中DSにありますので必要事項記入のうえ下記宛まで提出して下さい。

〒567 茨木市美穂ヶ丘5番1号（阪大吹田団地内）

大阪大学大型計算機センター共同利用掛

切：昭和57年3月31日

応募用紙の請求及び不明な点については、センター共同利用掛（TEL 06-877-5111 内線2817）までお問い合わせ下さい。

他の課題番号へファイルを移す方法について（再掲載）

ある課題番号下にあるファイルを他の課題番号下に移したい場合、数個のファイルを移すのであれば、あらかじめ移したいファイルにリード・パーミッションをつけてCOPYコマンド等で移すことができます。ところがファイルの数が多い場合、いちいちコマンドでやると作業量が大変になり面倒である、という場合FILSYSを用いてファイルを磁気テープに移し（退避）、新たな課題番号下に磁気テープの内容を移す（復元）ことにより、一度にファイルを移行させることができます。又、退避テープを保存しておくことにより、課題番号が期限切れになりファイルが消去されても、新たに課題を申請することによりファイルを復元することもできます。

以下の説明で下線の引いてある部分は次のような意味を持っています。

KADAI BANGO	移すファイルの入っている課題番号
PASSWORD	# のパスワード
NEW - KD	移される課題番号
NEW - PW	# のパスワード
CATA - NAME	移すカタログ名
FILE 1, FILE 2, ………	移すファイル名

なお、下線以外はそのまま指定して下さい。

(1) テープに退避する方法（セーブ）

```

1          8          16
$          JOB      KADAI BANGO$PASSWORD, D
$          FILSYS
SAVE_KADAI BANGO, NEWNAM/USER - FILE/
LIST_KADAI BANGO
$          TAPE9    PS, A1S, , 99999, , SAVE, 3, DEN16
$          ENDJOB                                     注1      注2

```

注1. テープ識別名 12文字以内の任意の英数字

2. 記録密度 DEN16 : 1600RPI DEN62 : 6250RPI

(2) ディスクに復元する方法(リストア)

- ① すべてのファイルのある課題番号に移す。

```
1          8          16
$          JOB          NEW-KD$NEW-PW, D
$          FILSYS
USERID┘USER-FILE$HANDAI
RESTORE┘USER-FILE, NEWNAM/NEW-KD /
USERID┘NEW-KD$NEW-PW
LIST┘NEW-KD
$          TAPE9      PR, A1S, , 99999, , RESTORE, 3, DEN16
$          ENDJOB
```

- ② カタログ若しくは特定のファイルを移す。

あるカタログ以下のすべてのファイルを移す。

```
1          8          16
$          JOB          NEW-KD$NEW-PW, D
$          FILSYS
USERID┘USER-FILE$HANDAI
RESTORE┘USER-FILE/CATA-NAME, NEWNAM/NEW-KD /
USERID┘NEW-KD$NEW-PW
LIST┘NEW-KD
$          TAPE9      PR, A1S, , 99999, , RESTORE, 3, DEN16
$          ENDJOB
```

あるカタログ下にある特定のファイルを移す。

```
1          8          16
$          JOB          NEW-KD$NEW-PW, D
$          FILSYS
USERID┘USER-FILE$HANDAI
RESTORE┘USER-FILE/CATA-NAME, NEWNAM/NEW-KD /,
DOONLY/FILE1, FILE2, ..... /
USERID┘NEW-KD$NEW-PW
LIST┘NEW-KD
$          TAPE9      PR, A1S, , 99999, , RESTORE, 3, DEN16
$          ENDJOB
```

(注意事項)

- ① 移される課題番号のファイル容量は、移す課題番号のファイル容量と同じかそれ以上でなければならない。
- ② 移される課題番号と移す課題番号に同一のカタログ名、ファイル名がある場合、移されるファイルの内容がこわされる。
- ③ 課題番号を含めてカタログ／ファイル記述が9レベル以上ある場合、磁気テープにファイルを退避することはできるが、復元はできない。
- ④ RESTORE のカードが複数枚にまたがる場合、先行するカードの最後が“,”(カンマ)で終らなければならない。又1枚のカードには72桁以内で記述しなければならない。
- ⑤ NEW-KD, NEW-PW に移す課題番号を指定することにより、元の課題番号の下に復元することができる。

自動製図装置のサービスについて（再掲載）

はじめに

自動製図機の利用者にとっては、より速く、より正確な製図機を望む声が大でありました。

このたび、製図装置の強化を計り、自動製図機（東洋電機製DRASTEM-9000-07）を導入し1月18日（月）よりサービスを開始しました。

1. システムの概要

本システムは大型計算機ACOS-900（システムⅡ）と通信回線で接続される製図機です。型式はドラムタイプでA0版相当の作図範囲を高速に描画します。

利用者はフォートランで作成された、作図プログラムをACOS-900（システムⅡ）で処理します。その出力結果（ラインプリンターイメージ）及び作図データ（製図機のデータ）はデマンド・ファイルに格納されます。

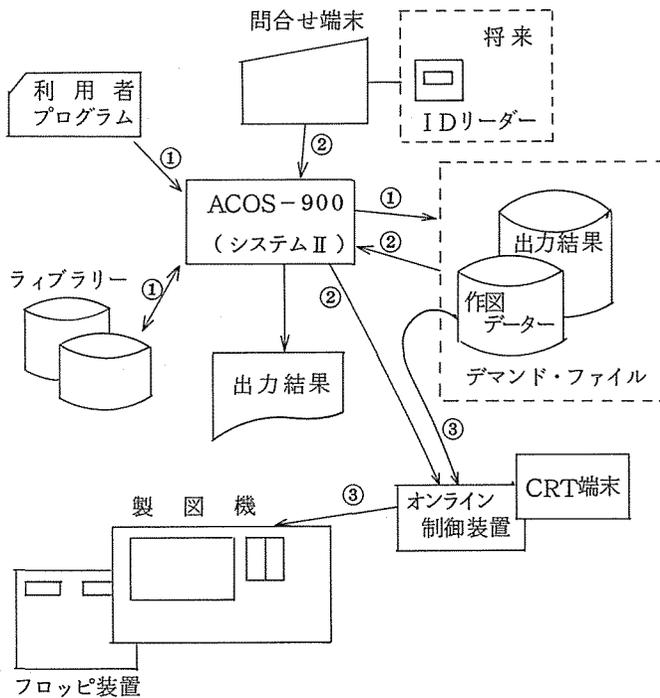
通常、利用者はその出力結果が欲しい時、IDリーダ装置にIDカードを入力すると（デマンド・ファイルに格納されている出力結果をラインプリンター装置に出力を要求するコマンドが発生）ラインプリンターに出力されますが、作図データを製図機に割り当て要求する、IDリーダ装置が現在設置（準備中）されていませんので、暫定処置として、自動製図装置利用ジョブ（Fクラス）の出力要求は問合せ端末から行って下さい。

利用者は、サービス時間帯に図形処理装置室に出向き、問合せ端末にて出力要求を行います。出力要求を正常に受付ますと、出力結果はラインプリンターに出力され、作図データは製図機に割り当てられます。製図機のCRT端末より割り当てられた作図データを製図機に取り込むコマンドを発生させます。コマンドが正常に終了するとACOS-900と製図機がオンライン状態となります。利用者は製図機の操作パネルを操作し作図を開始します。

その他の機能としては、作図データをフロッピー・ディスクに格納し、オフラインでそのフロッピー・ディスクから作図を行うことができます。

問合せ端末、製図機の操作法等は図形処理装置室に掲示しています。

2. システム構成



- ①：ジョブを入力して、結果をデマンド・ファイルに格納するルート
 ②：問合せ端末にて、デマンド・ファイルから出力要求をするルート
 ③：自動製図装置からデマンド・ファイルの入力要求をするルート

3. 自動製図装置の性能

1. 描画加速度 最高 8.5 G (45度方向)
2. 描画速度 最高 106m/分 (45度方向)
3. ペン上下動作回数 100回/秒
4. 有効描画範囲
 - X軸(ドラム回転) 1200 [mm]
 - Y軸(ベルト走行) 841 [mm]
 最大A0サイズ相当の用紙まで使用可能
5. 精度
 - 総合精度 ± 0.15 [mm]
 - 反復精度 ± 0.02 [mm]

6. 作図ペン

(1) ボールペン 4色(黒, 赤, 青, 緑)

速度設定 106 m/分 筆圧設定 "8" ~ "H"

(2) 水性ボールペン 4色(黒, 赤, 青, 緑)

速度設定 70 m/分 筆圧設定 "3" ~ "4"

(3) ペンシル 1色(黒)筆圧設定 "3" ~ "8"

注意) 通常はボールペンにてサービスをしています。

4. ジョブ制御言語の説明

既存のデジタル・プロッター及びドラフターの作図プログラムを若干のステートメントを追加するだけで、そのまま自動製図機に描画できます。又、新しい作図用サブルーチンも用意しています。詳細は自動製図装置の説明会資料を参照して下さい。

1カラム	8カラム	16カラム	
\$	SNUMB	C	
	JOB	課題番号 \$ パスワード, F	①

\$	LIBRARY	{ AX, DX XX DH }	②
----	---------	------------------------	---

\$	FORTTRAN	{ HEX BIN }
----	----------	----------------

CALL DEVICE("PLOT", 0)

}

CALL VSTERM(0, 0)

\$	GO	{ HEX BIN }
----	----	----------------

\$ LIMITIS CPU時間, メモリサイズ, -2K, レコード数

\$	PLOT1	NN	③
----	-------	----	---

{ データ

\$ ENDJOB

***EOF

説明

1. 自動製図装置 (DRASTEM) を使用する場合は、必ずシステムⅡで処理する。又、ジョブクラスは必ずFクラスに指定する。それ以外のジョブクラスで処理しますと、作図データがカードパンチ出力となりますので注意して下さい。
2. 既存のデジタル・プロッターの作図プログラムを処理する場合、
\$ LIBRARY XX を指定します。そして \$ FORTRAN, \$ GO のオプションにBINを指定します。
作図プログラムを下記の様に変更する。

```
CALL DEVICE("PLOT", 0)
```

```
CALL XYOPEN(99)
```

```
} 従来のデジタル・プロッターのプログラム
```

```
CALL XYCLOS
```

```
CALL VSTERM(0, 0)
```

3. ドラフターの作図プログラムを処理する場合
\$ LIBRARY DH を指定します。
作図プログラムを下記の様に変更する。

```
CALL DEVICE("PLOT", 0)
```

```
CALL DAPSTR(-1, 123)
```

```
} ドラフターのプログラム
```

```
CALL DAPEND
```

```
CALL VSTERM(0, 0)
```

4. 新しい作図プログラムで処理する場合
\$ LIBRARY AX, DX を指定します。
作図プログラムを下記の様にします。

```
CALL DEVICE("PLOT", 0)
```

```
CALL PLOTS
```

```
}
```

```
CALL PLOT(X, Y, 999)
```

```
CALL VSTERM(0, 0)
```

5. \$ PLOT1 NN のNNは作図データが格納されるファイルコードを表わし、通常は40を指定する。ジョブ制御言語の関係でファイルコードをMMに変更する場合、作図プログラムの先頭にCALL DTEST(MM)を追加し、同時に \$ PLOT1 MM と指定する。

注 意

- 出力結果等を JOUTサブシステムでセンター出力(DIRECT ONL)しますと、作図データーが自動製図機に割り当てられ、他の利用者に迷惑をかけますので、出力結果等は必ずデマンドファイルに登録する様に指定します。
- 上記の理由より、CARDINサブシステムでJOUTサブシステムの使用を禁止します。
- IDカードを入力してもFクラスジョブは出力の対象外ですので、出力要求は必ず、問合せ端末にて行って下さい。

(システム管理掛)

\$FPRINT コマンドの機能追加について

\$FPRINT コマンドは、システム標準形式順編成 (FRC形式) パーマネントファイルの内容をセンターのラインプリンタに出力する機能として

- ① バッチ、TSS形式のファイル出力 (JIS, BCDコードのファイル)
- ② ラインプリンタイメージ形式のファイル出力

以上の機能をもっていました、今回次のような機能を追加いたしました。

- ③ 複数ファイルの出力指定
- ④ 端末への出力 (リモート端末)
- ⑤ 圧縮出力

(1) 複数ファイルの出力指定

複数ファイルを出力させる時は、パラメータ部でファイル名とファイル名の間を「;」で区切ることにより複数ファイルを出力させることができる。

(例)

*\$FPRINT AFILE;BFILE

(2) 端末への出力

ファイルの内容をリモート端末またはTSS端末 (JOUTサブシステムを利用して出力) に出力させる時は、\$FPRINTR (コマンドの省略形は\$FPRIR) を入力することにより端末へ出力させることができる。

(例)

```
*$FPRINTR AFILE ..... ①
  TERMINAL LID INPUT ? ZZ ..... ②
  JOB CLASS (E,A,B,C) ? A ..... ③
```

SNUMB = 7639U

- ① コマンドと出力するファイル名を指定する。
- ② 出力する端末の端末識別名を指定する。
- ③ ファイル内容の出力量に応じたジョブクラスを指定する。

なお、\$FPRINTRを指定した場合には、センターにファイルの内容は出力されません。

(3) 圧縮出力

ファイル内容を入力する時に、ラインプリンタ用紙の出力枚数を軽減させるために、約2ページ分を1ページに圧縮して出力をします。

圧縮出力させる時は、\$FPRINTH(コマンドの省略形は\$FPRIH)を入力する。

(端末へ圧縮出力する時は、\$FPRIHRとコマンドを入力する)

なお、ラインプリンタイメージファイルの場合には、圧縮して出力はされません。

(例)

```
*$FPRINTH LIBSOURCE/CLIBH/SWEEPS
SEND BY MAIL(YES OR NO) ? NO
JOB CLASS (E,A,B,C) ? A

SNUMB = 7640U
```

```
FILE NAME : LIBSOURCE/CLIBH/SWEEPS          PAGE 0001   DATE 11/19/81   TIME 15:16'40"          PAGE 0002
0010  SUBROUTINE SWEEPS(A,ND,MD,N,M,ILL)          0570  13  L =I+1
0020C ***** LIBRARY HEADER *****          0580  Z =1.0/A(I,I)
0030C00 F4/SWEEPS: COMPUTATION CENTER OSAKA UNIVERSITY 0590  DO 14 J=L,M
0040C10 SWEEPS: SOLUTION OF LINEAR EQUATIONS BY GAUSS ELIMINATION 0600  14  A(I,J)=A(I,J)+Z
METHOD          0610  DO 15 K=L,M
0050C20 SUBROUTINE          0620  U =-A(K,I)
0060C30 710B25: HAYASHI TADASHI          0630  IF (U.EQ.0.0) GO TO 15
0070C40 780401: HAYASHI TADASHI          0640  DO 16 J=L,M
0080C50          0650  A(K,J)=A(K,J)+A(I,J)*U
0090C60 NEAC 2200 H500          0660  15  CONTINUE
0100C61 ACOS 77 NEAC S800: ACOS-6 R4.1: FORTRAN R001 0670  10  CONTINUE
0110C62 ACOS 77 NEAC S800: ACOS-6 R4.1-1: FORTRAN R004 (HEX,BIN) 0680  I = N
0120C70          0690  U = ABS(A(I,N))
0130C80          0700  IF (U.LT.1.E-7*PHAX) GO TO 110
0140C90          0710  IF (U.LT.1.E-5*PHAX) ILL=ILL+1
0150C *****          0720  IF (U.LT.EPS) EPS=U
0160C SUBR. NO. 1 - 1/5 (SWEEPS)          0730  ***** PHAX) PHAX=U
0170C SUBROUTINE OF SWEEP-OUT METHOD ( BY GAUSSIAN ELIMINATION
METHOD )
( CODED BY M. HAYASHI , 1978
**** SUBROUTINE, SIMULTANEOUS L****
```

\$FPRINTH コマンドの出力例

\$FPRINT コマンドの機能一覧

コマンド	パラメータの形式	パラメータの意味	機能
\$FPRINT (\$FPRI)	└ファイル名 [;ファイル名]...	ファイル名：出力するファイル名	パーマネントファイルの内容をセンターのラインプリンタに出力する。このコマンドで扱えるファイルはバッチまたはTSSのシステム標準形式順編成ファイル
	問答形式 SEND BY MAIL (YES OR NO)?	YES	センターのラインプリンタにファイルの内容が出力され、出力結果は連絡所へ送られる。
		NO	ファイルの内容はデマンドファイルへ出力される。IDカードを用いてラインプリンタへの出力要求を行う。
問答形式 JOB CLASS (E, A, B, C)?	E A B C	ファイル内容の出力量に応じたジョブクラスを指定する。	
\$FPRINTH (\$FPRIH)	\$FPRINTと同一	\$FPRINTと同一	パーマネントファイルの内容を圧縮してセンターのラインプリンタに出力する。なお、ラインプリンタイメージファイルは圧縮されません。
\$FPRINTR (\$FPRIR)	\$FPRINTと同一	\$FPRINTと同一	パーマネントファイルの内容を端末(リモート端末も含む)へ出力する。
	問答形式 TERMINAL LID INPUT?		出力先の端末ID(2字)を指定する。
	問答形式 JOB CLASS (E, A, B, C)?	\$FPRINTと同一	
\$FPRINTHR (\$FPRIHR)	\$FPRINTと同一	\$FPRINTと同一	パーマネントファイルの内容を圧縮して端末へ出力する。なお、ラインプリンタイメージファイルは圧縮されません。
	問答形式 TERMINAL LID INPUT?	\$FPRINTRと同一	
	問答形式 JOB CLASS (E, A, B, C)?		

「大学間ネットワークのサービス開始について」の記載文の訂正 の記載文の訂正

センターニュース Vol.11 No.3 1981-11第43号に記載されたニュースに誤りがありましたのでお詫び致します。

① 33頁の図6.ジョブの依頼例の個所は、次のようになります。

／／ジョブ名 JOB 課題番号\$パスワード, CLASS=A を

／／ジョブ名 JOB 課題番号, パスワード, CLASS=A に訂正します。

② 34頁の図7.ジョブ処理状況の問合せの個所は、次のようになります。

*USR△サーバ・ホスト名, 課題番号\$パスワード を

*USER△サーバ・ホスト名, 課題番号\$パスワード に訂正します。

「速報」及び「お知らせ」の集録

〈速報No. 87(1981.12.5)より〉

1. 年末年始の業務について

年末年始の業務を下記のとおり行いますので御留意願います。

記

項目	年月日		昭和57年1月					
	昭和56年12月		5日(火)	6日(水)	7日(木)	～	11日(月)	12日(火)
	24日(木)	25日(金)						
(1) ○オープン入出力装置室	→	→	13時	→	→	→	→	→
○オープン磁気テープ装置室	→	→		→	→	→	→	→
○TSS端末室	→	→		→	→	→	→	→
○特殊入出力装置室	→	→		→	→	→	→	→
○入出力棟	→	→		この間午後7時まで	以降午後10時まで	→	→	→
○オープンパンチ室	→	→		→	→	→	→	→
○媒体変換装置室	→	→		→	→	→	→	→
(2) ○カード保管室	→	→		→	→	→	→	→
○プログラム相談	→	→					→	→
○図書資料室	→	→					→	→
(3) ○バッチサービス	→	→		この間午後7時まで	以降午後10時まで	→	→	→
○TSSサービス	→	→		この間午後7時まで	以降午後10時まで	→	→	→

注意 ○サービスの開始及び終了時刻は

年内 9:30～22:00

1/5～1/8 9:30～19:00 (1月6日(水)の保守は中止し、サービスを行います。)

1/9(土) 9:30～12:00

1/11～ 9:30～22:00

○12月25日(金)までに処理できないジョブは明年1月5日以降の処理となります。

○12月25日(金)サービス終了までに出力されていないデマンドファイル内の結果は、明年1月5日以降の取り出しとなります。

○学外利用者の計算依頼については郵便事情等の問題もありますので、できるだけ早く行って下さい。

(共同利用掛)

2. 利用者説明会の開催について

利用者説明会を下記のとおり開催いたしますので、参加希望者は各説明会の申込要領により申込んで下さい。

記

(1) 自動製図装置(ドラステム9000)の利用法

○日時等

月 日	時 間	タ イ ト ル	内 容
12月11日 (金)	13:30 } 16:00	○自動製図装置(ドラ ステム9000)の利 用について	○自動製図装置(ドラステム9000) の利用に関すること。 ○システム構成 ○サブルーチンの概説

(2) 地球学データベース(GEODAS)〔再掲載〕

○日時等

月 日	時 間	タ イ ト ル	内 容
12月14日 (月)	13:30 } 17:00	○地球学データベース (GEODAS)説明 会について	○地球学データベース(GEODAS) の利用に関すること。

(3) 計算機利用相談データベース(CONSULTANT)

○日時等

月 日	時 間	タ イ ト ル	内 容
1月26日 (火)	13:30 } 17:00	○計算機利用相談デー タベース(CONSU LTANT)について	○計算機利用相談データベース(CO NSULTANT)の利用に関する こと。

3. 所在地表示の変更について

明年1月1日(金)より当センターの所在地表示が下記のとおり変更になりますのでお知らせします。

記

(新) 所在地表示 〒567 茨木市美穂ヶ丘5番1号(阪大吹田団地内)

(旧) 所在地表示 〒565 吹田市山田丘

(庶務掛)

4. カードロッカーの更新及び、整理について

カードロッカーの第3期（10月～12月）使用期間が12月25日（金）で切れます。

第4期（1月～3月）の受け付けは12月15日（火）より行いますので、希望者は1階利用者受付で手続きしてください。（学外利用者の更新手続きについては電話でも受け付けます。）

なお、第4期の利用開始は1月5日からです。

できるだけ多くの人に使って頂くため、ロッカーの利用は1人につき1個に限ります。なお、期限切れとなっているもの及び使用者名簿に更新手続きを行っていても使用票（黄色）を変更していないものは、カードをロッカーの外に出し期限終了後2週間を経過したときには廃棄します。

また、最近カードの紛失が多くみられますので、カードは指定された場所以外（ロッカーの上、床等）に放置しないよう御注意願います。カードの紛失等についてはセンターで責任を負いませんので御了承願います。

（共同利用掛）

5. 大型計算機利用に伴う利用者旅費の申請について

利用者旅費を希望する場合は、センター所定の申請書を提出して承認を得る必要があります。

（ただし、科学研究費による利用及び大学院生は旅費支給の対象にはなりません。）

本年度中（昭和57年3月31日まで）に当センターを出張利用する予定のある利用者は、下記の要領で手続きを行ってください。

なお、出張利用の申請が多い場合は調整を行いますので、あらかじめ御了承願います。

記

1. 遠隔地利用者（京阪神以外の者）の場合

「旅費支給の申請書」に必要事項を記入して所属連絡所へ提出してください。

連絡所で受け付けた後、各地区協議会（第6地区の場合は直接）を通じて、当センターに送付されます。

この申請書は、出発希望日の2週間前までに当センター必着となっていますが、調整の必要がありますので、次表の締切日までに到着するよう申請してください。

利 用 月	旅費申請の締切日（センター到着日）
昭和57年2月中に出張利用する予定者	昭和57年1月20日
〃 3月中 〃	昭和57年2月20日
(注) 各月の1日～5日までに利用する場合は、出発希望日の2週間前までに当センターに必着のこと。	

2. 第5・第6地区で京阪神地区の利用者（注参照）

日帰り旅行申請書で出発希望日の3日前までに、当センター共同利用掛へ直接送付してください。

日帰りの出張回数は1人当り5回以内です。

なお、事前に所属長の許可を得ておいてください。

注 京阪神地区の利用者（日帰り旅行適用者）は次の連絡所に所属する者とする。

（第6地区） 大阪府下の全連絡所

奈良県下の //

兵庫県下の //

和歌山県下（和歌山高専を除く）の全連絡所

（第5地区） 京都府下（舞鶴高専を除く）の全連絡所

滋賀県下の全連絡所

3. 出張利用の承認

センターで承認すると利用者へ直接連絡いたします。

なお、出張時には、必ず印鑑を持参し利用者受付へ申し出てください。

4. 旅費の支給

旅費支給は、後日送金（銀行振込）となります。

（共同利用掛）

6. 核四極共鳴スペクトルデータベース（NQR）のサービス開始について

核四極共鳴スペクトルデータベース（NQR）のサービスを12月1日より開始しましたので利用してください。利用方法の概略については下記のとおりです。

なお、詳細については、センターニュースVol. 11, No. 4（57年2月発行予定）に掲載しますので御期待下さい。

記

核四極共鳴スペクトル・データベース：NQR

核四極共鳴スペクトルは、結晶性物質を対象とするラジオ波分光学の一分野である。固体物性の重要な研究手段であると同時に、分子構造研究、化学結合の研究、結晶物質の同定など幅広い応用をもつ。本データベースは、核四極共鳴スペクトルに関する数値データとそれに付随する書誌情報を格納している。

「速報」及び「お知らせ」の集録

KEYWORD および FREQUENCY による検索例

SYSTEM ?NQR SEARCH

*** WELCOME TO NQR ***

=== START SEARCH ===

MODE ? ← MODEレベルでの
=? ← コマンド群についての問い合わせ

--- TYPE IN ONE OF FOLLOWING MODES ---
MODE TO SEARCH IN TERMS OF

```

. . . . .
REGISTRY : CAS REGISTRY NUMBER.
FORMULA  : MOLECULAR FORMULA.
KEYDATA  : NAME, AUTH, JRNL, KYWD, REMK.
FREQUENCY: NUCLEAR MASS AND/OR FREQ.
. . . . .
AND       : CONJUNCTION BETWEEN TWO SET NUMBERS.
OR        : DISJUNCTION BETWEEN TWO SET NUMBERS.
DISPLAY  : DATA DISPLAY IN FORMATS,
           ( OPTION ; A, B, C, D, E.)
RESTART  : RESTART THE RETRIEVAL OF NQR.
-----
    
```

MODE ?
=KEYDATA

FIELD ?
=AUTHOR ← キーワード検索の要求

SEARCH WORD ?
=KOZLOV ← キーワード

RECORD COUNT ; 7 }
SET NUMBER ; 1 } ← 検索されたレコードは7件でこの
レコード・セットには1番の番号が付された

SEARCH WORD ?
= キャリッジ・リターン

FIELD ?
= キャリッジ・リターン

MODE ?
=FREQUENCY ← スペクトル振動数による検索

TYPE IN RETRIEVAL CONDITIONS.
=35 28.0 -29.0 ← 質量数 35, 共鳴周波数 28.0 ~ 29.0 MHz の間に
スペクトルをもつものは?

次ページへ続きます。

RECORD COUNT ; 11
SET NUMBER ; 2

TYPE IN RETRIEVAL CONDITIONS.

= キャリッジ・リターン

MODE ?

=DISPLAY 1 ← SET NUMBER 1 のものを出力せよ

OPTION ?

=A ← 出力内容はOPTION A に従う
“?” の入力によってオプションの詳細が示される。

```
-----
FORM 67 564-76-5 C7H15CL3N1P1
NAME PHOSPHORIMIDIC TRICHLORIDE, (1-PROPYLBUTHYL)-;
      . . . . .
      NUCLEAR MASS   TEMPERATURE   REFERENCE   FREQUENCY
FREQ   3 5           77.000000     1           28.33 2000
                                           27.80 8000
                                           27.73 2000
```

```
-----
FORM 67 564-75-4 C7H15CL3N1P1
NAME PHOSPHORIMIDIC TRICHLORIDE, (1,1-DIETHYLPROPYL)-;
      . . . . .
      NUCLEAR MASS   TEMPERATURE   REFERENCE   FREQUENCY
FREQ   3 5           77.000000     1           29.73 8000
                                           27.74 8000
                                           27.51 5000
```

⋮

(備考) 上記以外に、次のコマンドによって検索することも可能である。

(INQ の端末利用者言語 EQL に従う)

SYSTEM ? INQ

INQ EQL VERSION 4.3 16:44'26" 09/03/81

OPTION FILE ? NQR/OPTION

(研究開発部)

7. 科学研究費による利用期限について

昭和56年度分科学研究費による計算機の利用期限は、昭和57年2月15日(月)までです。利用期限が過ぎますと課題番号は、抹消され、これに伴いファイルも消去されますので御留意下さい。

なお、科学研究費利用分については、校費による振替支払いはできませんので、予算額の管理

方御配慮願います。

また、科学研究費による計算機の利用期限は2月15日までとなっていますが、所属部局等によっては科学研究費の締め切りが早い場合もありますので、支払責任者及び経理責任者と打ち合せのうえ、計算機の利用計画等をお立て下さい。

(共同利用掛)

9. データベース共同形成のためのDBMS活用に関する研究会の開催について

最近、汎用DBMSあるいは情報検索システムを使った学術情報データベースのサービスが活発に行われ始めた。このような状況の下で、原データの収集と編集のためのTOOLに対する要望が強まっています。今回の研究会は、これからデータベースを構築される方々に、早速に役立つデータ収集と編集のためのシステムあるいはソフトウェアを紹介することを目的に開催しますので、関心のある方多数の御参加を歓迎致します。

○日時等

月 日	内 容
昭和57年 1月29日(金) 13:30~ 16:00	<p>1. TSSモードでのデータベース構築と検索のためのDBMS ; COOD</p> <p>講師 東北大学理学部 教授 田中 信行</p> <p> " " 大型計算機センター 助手 松田 孝子</p> <p>(概要)データベース管理システムCOODは現在大阪大学大型計算機センターにおいて利用可能です。</p> <p>論理構造の平易さ、操作の簡易さの由に、初心者でも直ちにCOODによるデータベースの作成が可能です。</p> <p>COODの構成とこれによるデータベース作成方法について説明します。</p>
	<p>2. データベース共同形成と利用のためのマイコンの活用</p> <p>講師 東海大学工学部 助教授 菊川 健</p> <p>(概要)マイコンはPersonal computerとも呼ばれるように、常に利用者の時間的都合に合わせて利用でき、応答面でも、機能的、性能的に見て多くの点でTSSより便利です。</p> <p>ここでは、マイコンの活用による個人用データベースの作成と検索の技法を紹介し、同時に、マイコンで作成したデータベースを大型計算機に移植する方法について説明します。</p>

(研究開発部)